

2014年度 早稲田大学 人間科学部

日本史 解答例

I 古代の歴史書 <標準>

問1カ 問2ア 問3ウ・エ 問4オ

問5イ 問6イ 問7ウ 問8オ

難問は問4・5。問1は「史部」のこと。

II 中世の商業 <易>

問1ウ 問2カ 問3イ 問4イ

問5エ 問6オ 問7ア 問8オ

問4は「兵庫北関入船納帳」について、関銭を徴収していたのが東大寺であることまで覚えていないと正解しづらい。2009年の早稲田法学部でも出題された内容で、早稲田予備校では直前期の最終授業で紹介していた。また、問8のような問題を経験すると、歴史用語の漢字は書けても、読みは「オレ流」という学習法ではすまされないことがわかるだろう。

III 江戸時代の国学 <やや易>

問1ウ・オ 問2ア 問3ア・イ 問4エ

問5カ 問6カ 問7ウ 問8エ・オ

国学をテーマとする大問を出題する大学はめったにないが、早大では対策しておくべきテーマだった。傾向を知っていた人たちは笑いがこみ上げてきただろう。問5の空欄には「古」が入る。これのみ難問と言える。

IV 近現代の日米関係 <やや易>

問1ア・ウ 問2エ・オ 問3ウ 問4カ 問5エ

問6オ 問7ウ 問8イ 問9ア・カ 問10エ・カ

問4のみ難問。これ以外の問題は、たとえ「2つ選べ」問題であっても難問とは言えない。消去法を駆使して解く。近現代は緻密な学習を心がけよう。

V 食の歴史 <やや易>

問1ウ 問2エ 問3ア 問4イ

問5オ 問6オ 問7ア 問8イ・カ

問6は難しい。絶海中津が義堂周信とならぶ五山文学の代表的人物であることは知っていても、「足利基氏に招かれて鎌倉に下った」という事実は知らないだろう。選択肢イと悩まされた。水墨画では当初から「自然や人の姿」が描かれている。問8 選択肢エのカツレツやライスカレーは、ふつう大正期に広まったととらえる食べ物である。このため「明治時代になると」という部分にツッコミたくなる。しかし選択肢イ・カは確実に誤文である。選択肢イには「初めて」、選択肢カには「始めた」とあるため、作問者が明確に「時期誤りタイプ」の誤文をつくったのだろうと推測しよう。作問ミスとも言いたくなるが、早稲田大学はなかなか作問ミスを認めない大学である。

講評

かつて難問の嵐だった人間科学部だが、ここ3年間は解きやすい問題になっている。受験生を悩ませるのは、「該当するものがなければ、カをマークせよ」という設問だろう。しかも今年は冒頭の問題から「カ」が正解だった。これに冷や汗をかかされた人もいるだろう。ただし、2010年の人間科学部の入試も、冒頭から「カ」が正解だった。過去問で問題を解く練習を積むことが重要である。